

第1回岩手県広域サイクリングルート検討会議 議事概要

1 日時

令和5年2月1日（水） 10時～11時25分

2 場所

岩手県民会館 4階 第2会議室

3 出席者

別添出席者名簿のとおり

4 議事

- (1) 岩手県自転車活用推進計画について
- (2) 広域サイクリングルートの設定方針（案）について
- (3) 広域サイクリングルートの検討スケジュール（案）について

5 配布資料

- ・ 次第
- ・ 出席者名簿
- ・ 配席図
- ・ 岩手県広域サイクリングルート検討会議設置要綱
- 【資料1】 岩手県自転車活用推進計画の進捗状況等（令和3年度末時点）について
- 【資料2】 国のモデルルート
- 【資料3】 広域サイクリングルートの設定方針（案）
- 【資料4】 広域サイクリングルートの検討スケジュール（案）
- 【参考資料1】 岩手県自転車活用推進計画（令和3年3月）
- 【参考資料2】 第2次自転車活用推進計画（令和3年5月）
- 【参考資料3】 「いわてサイクルステーション」登録制度

6 会議結果

○座長等選任

- ・ 構成員の互選により、岩手県立大学総合政策学部の宇佐美誠史氏を座長に選出。
- ・ 宇佐美座長が国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所の高橋朋昭氏を副座長として指名。

○議事

(1) 岩手県自転車活用推進計画について

- ・ 事務局から資料1、参考資料1及び参考資料3について説明。

<意見等>

- ・ 特に無し。

(2) 広域サイクリングルートの設定方針（案）について

- ・ 事務局から資料2、資料3及び参考資料2について説明。

<意見等> ※ 「⇒」：事務局回答

(岩手県自転車二輪車商業協同組合 安部理事長)

- ・ 広域サイクリングルートを整備するための国からの補助制度はあるか。
⇒ 路面表示や案内看板等の整備は、国土交通省の防災・安全交付金の対象事業となっている。自転車関係の事業は防災・安全交付金の重点計画として位置付けられているため、交付率も通常の事業より高い。

(公益財団法人岩手県観光協会 高橋専務理事兼事務局長)

- ・ 広域サイクリングルートは、誰をターゲットに設定するものか。
⇒ サイクリストや一般観光客を含めた多様な利用者層を想定している。県が設定するサイクリングルートは、基幹ルートとして設定するため、延長100km以上の長距離ルートとなるが、市町村等が設定する短距離の地域ルートと連携して、観光地等を巡れるようなルートとしたい。

(宇佐美座長)

- ・ 事務局から提案があったルート設定の方針案は、広域サイクリングルートの将来的なナショナルサイクルルート指定も見据え、国の指定要件に基づいて整理したものであるが、ターゲットを明確にすることも重要であるため、本検討会議で議論していきたい。

(岩手医科大学教養教育センター ホップス教授)

- ・ 普段自転車に乗らない人からすると100km以上のルートは長いと感じるかもしれないが、サイクリストから見れば決して長くない。逆に50km程度では、サイクリング目的で来訪した人にとっては物足りなく感じると思われるので、100km以上というルート設定方針は適切と考える。

(宇佐美座長)

- ・ 八幡平ヒルクライムなどの急峻な地形であれば別だが、平坦な地形であればサイクリングを目的に訪れる人であれば100km以上の長距離でも簡単に走破できると考えられる。

(岩手県サイクリング協会 盛合事務局長)

- ・ 岩手県の外周は600km以上あり、ルート延長も長くなることが想定されるが、最大どの程度の延長を想定しているのか。
⇒ 具体的なルートや延長等については、次回の検討会議で提示する予定である。
なお、ナショナルサイクルルートで最長となる太平洋岸自転車道は、全長1,487kmであり、千葉県から和歌山県の各所を周遊するルートである。岩手県でも、日帰りだけでなく、途中途中で宿泊しながら県内を周遊できるようなルートを検討していきたい。

(公益財団法人岩手県バス協会 菅原専務理事)

- ・ 広域サイクリングルートの設定に当たり、交通事業者として、どのように関わっていけばよいか。
⇒ 鉄道であれば、サイクルトレインの運行が挙げられる。また、全国的には、自転車バスをバスに搭載するサイクルバスといった取り組みもある。国のモデルルート設定も見据えると交通事業者との連携は不可欠となるため、本検討会議でご意見をいただきたい。

(宇佐美座長)

- ・ サイクルトレインやサイクルバスなどの自転車を携えた移動に加え、自転車を持たない来訪者についても考慮すべきである。例えば、しまなみ海道のレンタサイクルサービスのように、ルートの起終点や交通の拠点で、自転車を貸出返却できるようなサービスを充実させることも重要である。

(高橋副座長)

- ・ 広域サイクリングルートは、他県のルートとの連携を想定しているのか。
⇒ 例えば、宮城県の「震災復興・伝承みやぎルート」は岩手県との県境までルート設定されており、他県と連携できる部分については考慮してルート設定していきたい。

(岩手県空港ターミナルビル㈱ 菊池総務部参事兼業務課長)

- ・ 広域サイクリングルートは、4つの各ルートで資料3の①～⑧の要件を全て満たすルートを設定するという認識でよいか。
⇒ そのとおりである。

(岩手県空港ターミナルビル㈱ 菊池総務部参事兼業務課長)

- ・ いわてサイクルステーションは県南地域で登録が進んでいないようにも感じるが、何か課題があるのか。
⇒ いわてサイクルステーションは昨年11月11日時点で33施設を登録しているが、道の駅「平泉」や道の駅「遠野風の丘」など、県南地域で冬期間に申請をいただいている施設もある。冬期間に申請いただいた施設については、春からの自転車利用を考慮して3月中に一括して登録することとしており、今後、県南地域でも登録は増える見込みである。なお、北上市や陸前高田市など、いわてサイクルステーションの指定要件を満たすが、独自の指定制度があることなどが理由で登録いただけていない施設もある。そのような施設に対してもいわてサイクルステーションへの登録を働きかけていきたい。

(宇佐美座長)

- ・ ルート設定方針で記載されている休憩施設の定義は、いわてサイクルステーションなど、何らかの制度に登録されている必要があるのか。
⇒ サイクルラックや空気入れポンプ等の自転車利用環境が整備されている施設は、何らかの制度の登録の有無に関わらず、休憩施設としてみなす予定である。しかし、自転車利用者の利便性向上等の意味でも、自転車利用環境が整った施設は全て県の登録制度であるいわてサイクルステーションに登録して頂けるように働きかけていきたい。

(岩手県商工会連合会 内金崎自転車商会代表)

- ・ サイクリングが目的で来訪する人は100kmを越えるルートでも楽しめると考えられるが、一般の観光客にとっては走れるルートも限られる。どちらをターゲットにするかで、設定するルートも変わるのではないか。なお、大槌町で実施している自転車を活用した観光プログラム「おおつちチャリクエ」が令和5年3月8日(水)8時15分からNHKで放送されるので、是非、ご覧いただきたい。
⇒ 県で設定するルートは、長距離の基幹ルートとしての位置付けるものであるが、市町村等が設定する比較的短距離のサイクリングルートは、地域ルートとして位置付けられるものであり、基幹ルートと地域ルートを組み合わせて自転車を活用した観光を促進していきたい。なお、県が設定するルートは延長が長いと、観光地周辺の区間や急峻な区間等の様々な要素が含まれる。ルートの中でターゲットに応じたルートの魅力や利用方法を整理していきたい。

(宇佐美座長)

- ・ 岩手県内でも地域によって特色や魅力が異なるため、各ルートでそれぞれを堪能できるようなコンセプトを設定することが重要である。

(国土交通省東北運輸局観光部 會田観光地域振興課長)

- ・ ルート設定にあたっては、岩手県に来訪する方や自転車を利用する人が何を求めて来訪しているのかを把握したうえで、検討することが重要である。また、SDGsの観光分野では、地域の文化を守ることも目標の1つに定められており、来訪者を受け入れる側の意見も取り入れながら、地域の期待と来訪者のニーズの整合を図っていく必要がある。
⇒ 今後の検討の参考としたい。

(岩手県商工会議所連合会 水野事務局長)

- ・ 県が設定する広域サイクリングルートは延長が長く、主たるターゲットをサイクリストとするなど、ターゲットを絞り込んで検討を進めた方がよいのではないか。各地域の観光の取組と連携して取り組むことも重要である。
⇒ 今後の検討の参考としたい。

(宇佐美座長)

- ・ 地域の中でも、初級、中級、上級と分けたルート設定や、車で移動しながら各所でサイクリングを楽しむといった場合も考えられる。岩手県は地域資源が豊富にあるため、広域サイクリングルートに上手く組み込んでいけるとよい。

(3) 広域サイクリングルートの検討スケジュール（案）について

- ・ 事務局から資料4について説明。
<意見等> ※ 「⇒」：事務局回答

(宇佐美座長)

- ・ パブリックコメントは県外の方も対象とする認識でよいか。
⇒ そのとおり。

(宇佐美座長)

- ・ コロナ禍以前の外国人の来訪状況や、先日The New York Timesの「52 Places to Go in 2023（2023年に行くべき52か所）」に盛岡市が選出されたことを踏まえると、外国人も意見聴取の対象としてもよいと考える。例えば、野田村の苫屋という南部曲り家は、手紙でしか宿泊予約が取れないのにも関わらず、外国人観光客が多く来訪しているという。多様なターゲット層から意見を収集できるよう工夫していただきたい。

(国土交通省東北運輸局観光部 會田観光地域振興課長)

- ・ 国土交通省では、観光地域づくりに対する支援メニューを用意しているので、広域サイクリングルートの検討に関連する観光振興事業等においてもご活用いただきたい。
⇒ 今後の検討の参考としたい。

(宇佐美座長)

- ・ 広域サイクリングルートが各地域の観光の取組と連携ができるように、来年度中のルートの設定に合わせて調整を行い、再来年度から動き出せるよう準備しておくことも重要である。

○その他

- ・ 特に無し。